

Possible association between oral health status and appetite loss in community-dwelling older adults

井上, 昂也

<https://hdl.handle.net/2324/7329386>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (歯学) , 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名	井上 昂也		
論 文 名	Possible association between oral health status and appetite loss in community-dwelling older adults (地域在住高齢者における口腔の健康状態と食欲不振との関連)		
論文調査委員	主 査	九州大学	教授 柏崎 晴彦
	副 査	九州大学	教授 築山 能大
	副 査	九州大学	准教授 荻野 洋一郎

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

高齢者における食欲低下は低栄養状態を引き起こす要因の一つであり、食欲低下の予防について検討することは大きな意味を持つ。しかしながら、食欲低下のリスクに関する研究は多くあるものの、口腔の健康状態との関連を検討した報告は少ない。そこで本研究では、地域在住高齢者を対象に口腔の健康状態と食欲との関連を検討した。対象者は、2018年12月～2019年1月に糸島市の介護予防・日常生活支援総合事業に参加した65歳以上の100人である。食欲は、Council on Nutrition Appetite Questionnaireを用いて評価した。口腔の健康状態は、歯数、咬合状態、嚥下機能、舌苔、Oral Health Assessment Toolを用いて評価した。食欲を従属変数、口腔の健康状態に関する各変数、及び、性別、年齢、手段的日常生活動作、認知機能、喫煙状況、飲酒状況を独立変数として重回帰分析を行った。その結果、歯の痛みを有する者は、食欲が有意に低下していた ($\beta = -1.39$ 、95%信頼区間 = -2.53 ; -0.26 、 $p = 0.016$)。一方、その他の口腔の健康状態に関する項目は食欲と有意な関連が認められなかった。したがって、高齢者の食欲低下の予防には歯の痛みをコントロールすることが重要であることが示唆された。

以上のように、高齢者における食欲低下と関連する口腔の因子が示され、高齢者の低栄養予防に貢献し得る知見と考えられ、博士（歯学）の学位授与に値する。